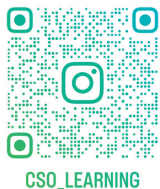


1 2025年度CSOラーニング制度が始まりました！

大学生・大学院生を環境問題に取り組む団体にインターンとして派遣する、「CSOラーニング制度」が今年度もスタートしました。2025年度は、全国5地区（関東・関西・愛知・宮城・福岡）の36団体で、63名の学生が活動しています。

今年度は新たな試みとして、募集期間を例年より約1か月延長し、5月下旬までとしました。これに伴いインターン期間を7か月間に変更しています。活動期間を短縮することは大きなチャレンジでしたが、応募者の皆さんが大学の授業スケジュール決定後にじっくりと検討できたことで、派遣先団体とのより良いマッチングにつながったと考えています。

また、応募期間にあわせて財団として初めて制度公式Instagramアカウント（@cso_learning）を開設しました。より多くの皆さんに制度を知っていただけるよう、今後もインターン生の活動の様子などを随時発信して参ります。ぜひフォローをお願いいたします。



CSO_LEARNING

インターン生は7月3日（木）に実施したキックオフ・ミーティングを皮切りに、それぞれの派遣先団体での活動を開始しました。オンライン開催ということもあり、少し緊張した面持ちの参加者も見受けられましたが、小グループに分かれた自己紹介ではすぐに打ち解け、笑顔で交流する姿が見られました。これまでキックオフ・ミーティングは地区ごとに実施していましたが、今年度は全地区合同で開催したことで、地区を越えたつながりを感じてもらえたのではと思います。本制度の特徴である「環境問題に関心を持つ同世代の

仲間との繋がり」を早速実感してもらえる貴重な機会となりました。



キックオフ・ミーティングの様子

このあとは、8月4日（月）～6日（水）に実施する全国合宿が大きなイベントとなります。活動開始から1か月後というタイミングでの合宿により、インターン生同士の交流を早期に深め、情報交換やミニプロジェクトの活性化が期待されます。

制度は昨年度で25周年を迎え、修了生は1,391名となりました。「木を植える人を育てる」という理念を大切にしながら、時代の変化に対応した改善を重ね、これからも学生と環境CSOを繋ぐプラットフォームであり続けられるよう、運営に努めて参ります。引き続き本制度へのご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2 環境分野の博士号取得を支援しています

SOMPO環境財団では「学術研究助成」として、大学院生（博士課程）の研究を支援しています。助成金を活用し博士号を取得された福岡大学商学部シチズンサイエンス研究センター 客員研究員 高田陽先生にお話を伺いました。

Q1 博士研究の内容を教えてください

私は長崎県の離島、対馬で、ニホンミツバチの感染症と伝統養蜂の関係の観察から、在来知の更新についての研究をしてきました。セイウミツバチ由来の感染症に対するニホンミツバチへの影響を生態学的に研究し、同時に伝統養蜂への影響やローカルな知識生産についても聞き取り調査を実施しました。

Q2 弊財団の助成金はどうな点でお役に立ちましたか？

セイウミツバチ由来の感染症サックブルードウィルスの研究を進める上で、ウィルスの検出が必要不可欠でした。私の所属している研究室では、他に遺伝子検査をする研究はなく、研究材料を全て集める必要があり、RT-PCR試験に使う試薬や実験器具の調達に使用しました。

Q3 今後のご予定、今取り組んでいる研究を教えてください

現在は、起業し、合同会社つくもらぼ 代表として市民科学や在来知の知識生産について研究を進めています。弊社での市民大学運営の受託や博物館イベントの企画運営の事業、長野市役所 集落支援員の業務で、市

民の実践活動や探究活動を伴走しながら研究しています。対馬での伝統養蜂の参与観察も継続しています。



蜂の観察

内検の様子

市民大学活動

**博士号取得おめでとうございます。
益々のご活躍を期待しています。**

SOMPO環境財団がインドネシアで実施している海外版CSOラーニング制度「NGO Learning Internship Program」では、現在第7期生25名がジャカルタ近郊の環境NGO11団体で活動しています。インドネシアにおけるインターン活動の特徴は、環境分野に直接関わる事業にとどまらず、デザインや会計といった分野でも、それぞれの学生が専門性を活かして活躍している点です。あるインターン生は、「派遣先団体では例え小さな貢献であっても、丁寧なアドバイスと建設的なフィードバック、そして感謝の言葉をもらうことができ、それを励みとして自分自身の成長を実感しています」と、活動の中での手応えを語ってくれました。



NGOラーニング第7期キックオフの様子

第7期生は2025年9月までの8か月間、こうした実践を通じて環境課題や組織運営についての学びを深めていきます。

また、インドネシアでの新たな動きとして、SOMPOグループの現地法人である「Sompo Insurance Indonesia (SII)」の支援のもと、制度の修了生が集う初のネットワーキングイベント

が開催されました。

同社では2022年度に「Sompo Alumni Idea Fund」というファンドを設立し、制度の修了生による環境保全プロジェクトに対して資金助成を行ってきました。これまで6期の活動を経て修了生が100名を超え、今回そのネットワークを活用する新たな取組みとして、修了生同士のつながりを深める場が設けられました。

7月12日に実施されたイベントには、第1期から第6期の修了生のうち10名が参加し、SIIの社員とともにパンテン州タンゲラン県のTanjung Pasirエリアでマングローブの植林活動を行いました。その後は修了生ネットワークの今後のあり方についてディスカッションを実施し、参加者同士で活発な意見交換が行われました。

期を越えた修了生の交流は、インドネシアでは初めての試みとなりました。今後も財団では、SIIとの連携を通じて、こうしたつながりを広げていけるよう、取組みを継続して参ります。



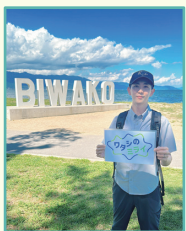
植林イベントの様子

Question

- ①. ラーニング生はどのような業務をしていますか？または、どのような業務をする予定ですか？
- ②. ラーニング生にはどのような期待をしていますか？
- ③. CSOラーニング制度について、お考えをお聞かせください。

01

特定非営利活動法人気候ネットワーク 延藤 裕之 様



A①

国際会議へのオンライン参加、気候変動やエネルギー政策に関する調査・研究・情報発信（ブログ記事投稿、Instagram投稿）を行います。気候変動問題の解決に向けた国際・国内・地域の活動に幅広く関わることができます。

A②

気候変動・エネルギーについての問題意識をもち、持続可能で公平な脱炭素社会の実現、脱炭素地域づくり、再生可能エネルギー普及などに関心があり、他プログラムのインターン・ボランティアの方と積極的に交流していただきたいです。また、主体的に活動を企画できることにも期待しています。インターン期間中は是非色々なことにチャレンジしていただきたいです！

A③

環境NGOの仕事について学生の頃に触れることができるため、大変貴重な機会となっていることは間違いなく、ここで得られた経験は将来の選択肢を検討する材料となるはずで、それは受け入れ団体としても同様で、インターン修了後も関わりのある方が多くおられることから、CSOラーニング制度での経験や交流は気候ネットワークの財産となっています。

02

特定非営利活動法人NPO birth 今野 紗貴 様



A①

公園や緑地の保全・活用、自然体験イベントの実施、地域との協働プロジェクトなど多岐にわたります。ラーニング生には、活動現場でのサポートなど、細かく多様な業務をお願いしています。

A②

NPO birthは「人と自然をつなぐ」ことをミッションに、都市に暮らす人たちがもっと自然と親しみ、地域のなかで関係を育める社会を目指して活動しています。ラーニング生には、まずは公園管理の現場等に入り、体を動かし、地域や自然に触れることを通じて、“人と人”“人と場所”とのつながりを実感してほしいです。その上で、自分は何に関心があるのか、この活動の中で何ができるかを考えてもらえたら嬉しいです。

A③

最初はわからないことも多いと思いますが、関わりを重ねていくうちに、学生一人ひとりの視点や意見が私たちにとても大切な気づきになることがたくさんあります。特に、地域や行政、企業など多様な関係者と連携する私たちの活動において、柔軟な発想や若い感性が入ることで、全体の雰囲気もぐっと開かれたものになります。ラーニング制度は、そうした相互の学びを生むとても良い仕組みだと実感しています。

「市民のための環境公開講座」は、市民の皆さまと共に地球上の諸問題を理解し、それぞれの立場でサステナブルな未来に向けて具体的に行動することを目指しています。今年度の講座では、複雑化・深刻化する地球環境の変化の中で、自然の美しさに触れ、心の豊かさを保ちながら環境問題に未来志向で取り組んでいくヒントを探ります。

特別講座含む全10回の連続講座は、無料のオンラインセミナー形式です。詳細、お申し込みは右の二次元コードよりホームページをご覧ください。皆さまのご参加をお待ちしています。

